

北上市総合計画 2021～2030 令和6年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和5年度）

| | |
|------------|------------------------|
| 基本方針 | 8.環境にやさしい、安全・安心な暮らしの形成 |
| 基本施策 | 8-2.循環と共生による持続可能な社会形成 |
| 関連するプロジェクト | |

豊かな自然と都市空間が共生する住みよい住環境の実現に向け、自然環境保全と地域に応じた再生可能エネルギーの普及とともに、資源循環型社会に向けた取組を推進します。また、企業活動に伴う環境影響や日常生活で生じる悪臭や騒音等を防止し、より良い地域環境づくりに取り組みます。

| | | |
|------|---|---------|
| 評価項目 | A | 順調 |
| | B | 概ね順調 |
| | C | やや遅れている |
| | D | 遅れている |

| | |
|------|----------|
| 総合評価 | B |
|------|----------|

R6事後
18

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

| No. | 担当部等 | プロジェクト | 推進方針 | 成果指標 | 達成状況(対象:R5) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの) | 達成状況 評価 | 達成状況分析(上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの) | | 今後の方向性 (◇:R6に着手予定・着手済み ◆:R7以降の着手を検討) |
|-----|-------|----------------------|--|------|---|------------|---|--|---|
| | | | | | | | 内部要因 | 外部要因 | |
| 1 | 生活環境部 | 花いっぱい運動の推進 | 環境美化意識の向上、地域コミュニティの活性化を維持するため、活動内容についてより効率的・効果的な方法を取り入れ、少ない人数や個人でも取り組みやすい事業展開を行い、潤いある緑豊かなまちづくりを推進する。 | ① | 花苗配布団体は横ばいで期待値を下回っている。 ・講習会、しらゆり植栽地の整備、花いっぱいコンクール及び市民集会を開催した。 ・コンクール参加団体数は減少(令和4年度:73団体→令和5年度:64団体)したが、講習会参加者数は増加(令和4年度:135人→令和5年度:155人)した。 | B (B) | 企業の花いっぱい運動への参加を呼びかけるためチラシを作成したが、沿道沿いの企業を中心に周知活動を行ったためチラシ配布エリアが一部に留まり、参加団体を確保することができなかった。 個人で取り組みやすい事業として、各講習会の開催について交流センターだよりや広報及びホームページを通じて市民への周知を行った。 | 高齢化や少子化により地域コミュニティが縮小傾向にあり、地域花壇の維持管理が難しくなっている。 ・毎年講習会に参加する市民もおり、花づくりに関する市民の意識は定着している。 ・学校の統廃合によりコンクールに参加する学校数が減少した。 | ◇花苗配布団体の増加を図るため周知先の拡大を検討する。 ◇各講習会は継続して実施する。内容や開催場所の検討を行い、さらなる講習会の充実を図る。 |
| 2 | 生活環境部 | 省エネ行動と再生可能エネルギー利用の推進 | 子ども向け教室や出前講座等で再生可能エネルギーや環境問題に対する理解を深め、自然に省エネ行動ができる環境配慮型の人材を増やしていく。 かむいソーラーの売電収益を活用した公共施設の省エネ化を進め、効果を市民に周知するとともに、太陽光発電等の再生可能エネルギーを導入しようとする市民を支援し、カーボンニュートラルの実現を目指す。 | ② | 再生可能エネルギー設備(太陽光・蓄電池)の導入について、個人住宅へ補助金交付件数が期待値を達成している。 きたかみこども環境未来塾エコチャレンジを実施した。 | A (A) | 北上市住宅用おひさまパワー活用設備設置費補助金の補助内容を広報等で周知した。 きたかみこども環境未来塾は対象学年の児童にチラシを配布し周知を行った。 エコチャレンジは定着しており、市内全小学校で取り組めた。 | 気候変動による全国的な異常気象や災害の発生を受け、市民の再生可能エネルギー設備の関心が高まっている。 きたかみこども環境未来塾は講師との日程調整により開催日の調整が難しくなっている。 | ◇おひさまパワー活用設備設置費補助金を継続して実施 ◇きたかみこども環境未来塾・エコチャレンジを継続して実施 |
| 3 | 生活環境部 | 環境監視の充実と公害防止対策の推進 | 環境保全協定の締結事業所を中心に立入検査や立入測定による訪問指導を継続するとともに、専任環境監視員による環境監視パトロールを効率的かつ継続的に実施することで、公害の発生抑制や環境汚染事故の未然防止対策を推進する。 | ③④ | 環境保全協定で定めた協定値を32事業所全てが遵守している。 (1事業所が基準超過したが、再測定の結果基準値を下回った) 重大な環境汚染事故などの防止ができています。 | B (B) | 協定値を遵守できなかった場合でも、訪問指導を適切に行っており、再測定の結果では協定値を遵守できている。 専任環境監視員による環境監視パトロールをほぼ毎日実施している。 | ・事業所の環境保全に対する意識が向上された。 ・重大な環境汚染事故の発生がなかった。 環境保全協定の締結が、事業所の環境汚染防止につながっている。 | ◇専任環境監視員による採水や特定粉塵調査等事業所への立入調査を継続して実施していく。 |
| 4 | 生活環境部 | ごみの発生抑制とリサイクルの推進 | 可燃ごみ・不燃ごみが最終処分されるまでの処理過程やごみ処理手数料の用途などを市民に可視化することにより、4R(断る、減らす、再使用、リサイクル)の意識高揚を図る。 不要なレジ袋を辞退するようマイバッグ持参を呼び掛けるなどプラスチックごみの削減に取り組む。 30・10運動の拡大とリサイクルの意識啓発を行い、事業所から生じる食品ロスの減量と紙の資源化を図る。 | ⑤⑥ | リサイクル率は昨年度比1.7ポイント減少し期待値には達していないが、一人1日当たりのごみ排出量は24g減少し、期待値に達した。 家庭からの廃棄物は、昨年度と比較して約900トンの減少、事業所からの廃棄物は約27トンの増加 | B (C) | 出前講座やごみ分別アプリの周知等、3Rの意識啓発を図ったことによりごみの総量は減少傾向にあるが、資源ごみ自体の重量も減少しているため、リサイクル率が低下している。 小型家電回収の協定締結(令和4年10月～)による再資源化及び不燃ごみの中から小型家電類を手選別で抜き取り、再資源化を行うことにより家庭からの不燃ごみ量は減少傾向にある。 | 資源ごみ自体の容量は大きく変わっていないが、近年は技術の進歩により資源ごみ自体の軽量化が進んでおり、総ごみ量に占める資源ごみの重量で算出するリサイクル率は低下した。 ・コロナ禍で事業活動を一時的に縮小していた事業所からのごみが増加傾向にある。 | ◇ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のチラシを工業クラブや不動産屋を通じて配布し、ごみ分別の周知を強化する。 ◇収集した不燃ごみから小型家電類の選別を継続し、有用な金属類やプラスチック類の再資源化の徹底を図る。 ◇製品プラスチックの資源ごみ化について、昨年度に引き続きR6年度もパイロット事業を行い、分別区分を可燃ごみから資源ごみへ変更するにあたっての検証を行う。 ◇市民が集まるイベント等において30・10運動の周知活動を実施する。 |
| 5 | 生活環境部 | ごみの不適正排出、不法投棄の防止 | 関連機関と連携し、アパート入居者へごみ分別の周知・指導を強化するほか、不法投棄防止パトロールやクリーン活動の実施結果を市民に周知するなど、不適正排出・不法投棄防止及び海洋プラスチックごみの発生防止に向けて意識啓発を図る。 | ⑦ | 清掃活動参加人数は、令和5年度の実績値が25,420人と昨年度より約3,500人増加したが、これまでの減少幅が大きく、期待値を達成することができなかった。 各地区公衆衛生指導員と連携を図り、不適正排出者へのごみ分別の周知・指導を行うことができた。 | B (B) | コロナ禍の影響で中止していた、市主催のクリーン活動を再開した。 ・各地区公衆衛生指導員によるごみ集積所の見回りを強化し、不適正排出者が特定できるごみが見つかった場合は、担当者へ連絡するよう依頼した。 ・不適正排出者が特定できる場合、自宅等へ訪問し直接指導を行った。 | ・地区の清掃活動において、コロナ禍で規模縮小していた活動を、コロナ禍前の規模で実施する地区が増えてきている。 アパート入居者に対し、ごみの分別指導を行う管理会社が少しずつ増えてきていること及びごみアプリの活用により、ごみの分別の理解が進んでいる。 | ◇市衛連理事と連携し、コロナ禍前と同規模で不法投棄防止パトロールを実施する旨を周知し参加者の増加を図る。 ◇各地区公衆衛生指導員と連携を図り、ごみ分別の周知及び指導を継続 ◇各種活動への関心を高めるため、不法投棄防止パトロールや再開するクリーン活動の結果を周知し、活動の成果を見える化する。 |

凡例 ●実績値 ○期待値

| 指標 | 指標の説明 | 実績値 | 期待値 |
|---|--|------------|---------------------|
| 花苗配布団体数 | 花苗配布を希望する団体実数(花いっぱい運動への協力団体) | 219 | 219 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | 団体 | 実績値 219 | 期待値 219 |
| | | 備考 | |
| おひさまパワー活用設備設置費補助金申請件数 | 補助金の交付決定をした設備数 | 57 | 64 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | 件 | 実績値 57 | 期待値 64 |
| | | 備考 | |
| 市内類型指定河川のBOD値(75%値)基準達成率 | 岩手県が測定した河川のBOD(生物化学的酸素要求量)が、定められた基準を達成している割合 ※公表される時期が遅い | 100 | 100 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | % | 実績値 100 | 期待値 100 |
| | | 備考 | H30値 R1値 R2値 未公表 R6 |
| 環境保全協定締結事業所の協定基準順守率 | 排水やばい煙などについて、協定で定めた協定値を順守している企業の割合 | 93.9 | 94.9 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | % | 実績値 93.9 | 期待値 94.9 |
| | | 備考 | |
| リサイクル率(事業系資源、焼却灰を含む) | 総ごみ量に対する総資源化量の割合 ※総ごみ量:家庭系ごみ(可燃、不燃、資源)及び事業系ごみ(可燃、不燃、資源) ※総資源化量:集積所収集に加え、イベント回収による小型家電、市に報告のある事業系資源、セメント原料になる岩手中部クリーンセンター焼却灰などの資源物の総量 | 38.00 | 38.08 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | % | 実績値 38.00 | 期待値 38.08 |
| | | 備考 | |
| 一人1日当たりのごみ排出量(資源ごみを除く) | 住民基本台帳人口(9月末現在)一人1日当たりの家庭系ごみ(可燃、不燃)と事業系ごみ(可燃、不燃)を合わせた量 | 665 | 662.7 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | g | 実績値 665 | 期待値 662.7 |
| | | 備考 | |
| 清掃活動参加人数(市衛連春秋清掃月間・クリーン活動・不法投棄監視パトロール、和賀川の清流を守る会の参加者) | 年間の市内清掃活動人数 | 26,794 | 26,795 |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| 生活環境部 | 人 | 実績値 26,794 | 期待値 26,795 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |
| | | | |
| 担当部等 | 単位 | R1 (現状値) | R2 R3 R4 R5 R6 R7 |
| | | 実績値 | 期待値 |
| | | 備考 | |